

ACCESS

大手前大学 大阪城キャンパス

〒540-0008 大阪府大阪市中央区大手前2-1-88

3路線3駅からアクセス可能

地下鉄 天満橋駅「3番出口」 徒歩
京阪 天満橋駅「東改札」 約2~5分
JR東西線 大阪城北詰駅「2号出口」 徒歩約13分

主要駅から最寄り駅までの所要時間

- ・大阪(東梅田)から 約4分
- ・天王寺から 約11分
- ・京橋から 約5分
- ・大阪上本町から 約12分
- ・なんばから 約10分

※時間帯や乗り継ぎ等により異なる場合があります。



大手前大学

【西宮夙川キャンパス】

大学院(比較文化研究科)
国際日本学部 / 建築&芸術学部 / 現代社会学部 /
経営学部 / 情報学部 (2027年4月開設予定 設置認可申請中)
通信教育部 現代社会学部

【大阪城キャンパス】

大学院(国際看護学研究科)
健康栄養学部 / 国際看護学部

※記載の内容・名称は申請中の予定であり、変更する場合があります。

国際看護学研究科サイト

<https://www.otemae.ac.jp/special/nurse/graduateschool/>



お問い合わせ:
大阪城キャンパス 教務課 (平日9時~17時)
TEL.06-6941-7063

大手前大学 大学院

Otemae University Graduate School



博士後期課程

2028年開設予定(仮称・設置構想中)

国際看護学 研究科

— 看護学専攻 —

男女共学

— 修士課程 —

看護実践科学分野 | 公衆衛生看護実践科学分野 | 助産実践科学分野

Global Nursing

看護で
未来を拓く。



看護のスキルを持って、 社会を変革する人材を育成。

国内外のグローバル社会において、

文化の影響を受けて共存する個人・集団・地域の多様な特性を理解し、

健康課題を俯瞰的に捉え、国際性と基本的人権意識、

高潔な倫理観と使命感をもち、高い志をもって包摂社会を希求し、

政治、経済、社会構造にも目を向けて、多様なニーズに沿った専門性の高い

看護実践力を涵養する教育を提供します。



研究科長 鈴木 江三子 教授 | 博士(保健学)

Message

研究科長メッセージ

— 国際性、研究力、実践力をもって グローバル社会に貢献する —

私が超音波診断を用いた妊婦健診を行っていた頃、妊婦さんは全員が超音波診断装置の画像上に写し出される像をみながら、「かわいい」「あかちゃんがいる」ととても喜んでいました。しかし、白と黒の識別不明瞭な画像の判読ができていたとは思えず、女性は一体何を見ているのだろうかという疑問から、私の研究がスタートしました。そして、妊婦健診場面の参与観察と診察後の聞き取り調査により、診察者の言葉によって画像が粹付けされて、認知(cognition)の形成に関し、対象の想像や期待など、視覚以外の要因に影響を受けて肯定的な感情を促していることを明らかにしました。また、毎回の妊婦健診時に超音波診断が用いられるという日本独自の特異な状況はどういった要因により形成されたのか、その諸要因の分析を行い、知識集約型の産業構造への変化による政策誘導がME機器の普及を急進させたことも考察し、使用方法の再考を提起してきました。

つまり、日々の対象者との出会いの中で感じる疑問を研究課題とし、対象者の声をデータ収集し、データが語ることに真摯に向き合い分析することで新たな発見に出会う。そして、更なる真実を追求し、より良いケアに繋がるように取り組むことが研究です。

本研究科では、まだ手付かずの多様な文化をもつ人々の声を聞き取る国際性と研究力、及び、各個人の文化に沿ったケアを提供するために活動する実践力を育成し、変容するグローバル社会に貢献できる看護専門職者の養成を目指したいと考えています。

Profile

岡山大学附属助産師学校卒業。助産師として15年間勤務後渡英。英国University of West London(旧テムズバレー大学)大学院助産学修士課程修了。修士(助産学)。大阪大学大学院医学系研究科博士後期課程修了。博士(保健学)。川崎医療福祉大学、兵庫医科大学(旧兵庫医療大学)教授を経て2019年より国際看護学部長。主な研究は超音波診断の導入要因と妊婦健診の変容による妊婦の身体感覚、児童虐待、女性受刑者がもつ未成年期の行動特徴と養育能力を明らかにし、多様な背景を有する女性への子育て支援を探索。また、アフリカや欧米諸国等において母子の健康支援や子どもの人権を守る研究等も実施。Otemae University Institute of Global Nursing (IGN) 顧問、International Learning Collaborationでは諸外国の看護職の研究者と共に対象が求める看護に関する国際看護研究を実施。研究や助産師としての功績について受賞歴多数。

国際看護学研究科看護学専攻(修士課程) 3つのポリシー

ディプロマ・ポリシー(修了認定・学位授与の方針)

国際看護学研究科看護学専攻では、以下の3つの基準に達している者に修士(看護学)の学位を授与する。

1. グローバル社会における看護実践の基盤となる保健・医療・看護や健康支援の多様性を理解し、看護や医療に関する幅広い知識と倫理観を持って対象の価値観を尊重する国際性を修得している。
2. 看護実践の場に内在する多様な健康課題を科学的分析力や論理的思考力によって探索し、グローバルな視点によって様々な健康課題の改善に取り組むための基礎的研究力を修得している。
3. グローバル社会に内在する健康課題の解決に向けて、専門分野の知識・技術の理解と研究を通して、専門性と独創性のある看護実践力を修得している。

カリキュラム・ポリシー(教育課程編成・実施の方針)

国際看護学研究科看護学専攻では、ディプロマ・ポリシーに掲げる目標を達成するため、共通科目、専門科目、特別研究科目を体系的に編成し、講義、演習、実習を適切に組み合わせた授業科目を開講する。また、コースツリーを用いて教育課程の体系的な構成を明示する。教育課程編成、教育内容、教育方法、学習成果の評価については、以下のように方針を定める。

1. グローバル社会における看護実践の基盤となる保健・医療・看護や健康支援の多様性への理解を深め、対象の特性や価値観を尊重する国際性を涵養するために、「共通科目」に国際看護の基礎を学修する「研究基盤科目」と新しい視座を持つための「研究関連科目」を配置する。
2. 看護実践の場に内在する多様な健康課題を科学的分析力や論理的思考力をもって解決する看護を探索する研究力を涵養するために、国際看護学の研究力の基礎を学修する「研究基盤科目」と、研究の新しい視点を学修する「研究関連科目群」を「共通科目」に配置し、修士論文を作成する「特別研究科目」を配置する。
3. グローバル社会に内在する健康課題の解決に向けて、専門性かつ独創性のある看護を実践する能力を涵養するために、「看護実践科学分野」・「公衆衛生看護実践科学分野」・「助産実践科学分野」の各分野に「専門科目」を配置する。
4. 学習成果の評価基準は、シラバスに明示し、講義では、試験およびレポート課題を中心に評価を行い、演習では、事前自己学習、演習への参加態度、プレゼンテーションなどで評価を行う。

アドミッション・ポリシー(入学者受入れの方針)

国際看護学研究科看護学専攻のアドミッション・ポリシーを以下のように定める。

1. 教育・研究目的

国際看護学研究科看護学専攻では、「看護実践科学分野」「公衆衛生看護実践科学分野」「助産実践科学分野」の3つの分野を基軸に、グローバル社会に暮らす個人・集団・地域がもつ多様性を包括的にとらえ、事象の分析力や客観性を培い、科学的思考をもって課題解決に取り組み、対象のニーズに沿った看護を探索する看護職、および時代によって変容する社会に対応できる公衆衛生看護学や助産学の知識・技術を有した保健師および助産師を養成することを目的とする。

2. 人材養成の指針

国際看護学研究科看護学専攻では、グローバル社会に暮らす個人・集団・地域が有する多様な特性を理解・尊重し、そこに暮らす人々が、QOL(クオリティオブライフ)を維持しながら豊かで安楽な生活が送れるように、看護の理論と実践に基づいた課題解決能力を培い、対象のニーズに沿った看護を探索し、人々の健康と看護学の実践に寄与する人材を養成する。また、時代や環境の変化に沿って変容する人々の健康課題について、主体的に多職種と連携・協働しながら、看護の専門性と科学的理論的思考をもって課題解決に取り組み、国内外における看護実践や教育・研究活動を継続させながら自己研鑽ができる人材の養成を目指す。

3. アドミッション・ポリシー

国際看護学研究科看護学専攻では、上記の目的を達成するために、以下のような人物を求める。

- (1) 看護師免許取得者(見込みを含む)で、看護師としての基本的な知識や技術を有し、研究科での学修や研究のために必要な基礎的英語能力を有する者。
- (2) グローバル社会に内在する多様な健康課題に高い関心を持ち、研究的視点によって看護を探索し、看護実践の向上に取り組む意欲のある者。
- (3) 看護実践に根差した研究能力を修得し、広く俯瞰的に物事を捉え、将来にわたって看護を探索する意欲のある者。
- (4) 看護職としての経験を通して、グローバル社会に対応した専門性のある看護実践能力の修得に意欲のある者。
- (5) グローバル社会に暮らす多様な人々への健康支援に強い関心を持ち、包摂社会の形成に向けて取り組む公衆衛生看護実践科学を学ぼうとする者。
- (6) グローバル社会に暮らす多様な女性や子どもの健康支援に加えて、国内外の母子保健の向上に強い関心を持ち、対象のニーズに寄り添った助産実践科学を学ぼうとする者。



看護実践科学 分野

グローバル社会に暮らす多様な人々
がもつ健康課題や、ライフサイクルに
応じた健康へのニーズを顕在化し、
その課題解決に向けて多職種と連
携し、高い志と崇高な倫理観をもっ
て主体的に取り組む高度な看護実
践専門職者を養成する。



Feature

教育研究の特色

保健師
国家試験合格率 (2025年度)
100%

公衆衛生看護 実践科学分野

超少子高齢社会に加えて、多様な国
籍を有する外国人労働者やその家
族が暮らす地域社会において、個
人、家族、集団や地域の健康課題を
明らかにし、包摂社会を希求し、
QOLの探求と社会の変革に向けて
取り組む保健師を養成する。



助産師
国家試験合格率 (2025年度)
100%

助産実践科学 分野

国内外の母子保健を取り巻く諸問
題や、ジェンダーやセクシュアリティ
への健康支援、および児童虐待防
止に向けた取り組みなど、女性や子
どもを中心とした複雑多岐にわたる
健康課題を探求し、その課題解決や
システム構築に向けて取り組む助産
師を養成する。

大手前大学 大学院 国際看護学研究科 看護学専攻における

教育の概念図

グローバル社会の看護を探求する
国際性、研究力、看護実践力を有する専門職者

特別研究科目
(専門的研究力)

看護特別研究
(国内外でのフィールド調査・データ収集・分析・報告)

看護研究演習
(文献検索・クリティーク・研究課題の明確化)

専門科目
(看護実践力)

— 臨床看護の追求 —

看護実践科学

国内外の臨床現場における
質の高い看護実践の探求

(基盤専門看護学)
看護管理特論、慢性・老年看護特論、
看護技術特論

(生涯発達看護学)
小児・思春期健康支援特論、
プレコネクションケア特論、
セクシュアリティ看護特論

(国際地域看護学)
地域在宅看護特論、精神保健特論、
国際保健活動特論

— 公衆衛生の向上 —

公衆衛生看護実践科学

社会包摂の課題解決に向けた
成熟した公衆衛生看護実践の探求

公衆衛生看護学特論、公衆衛生看護実
践特論、公衆衛生看護実践演習、人口
学特講、保健統計論、疫学特講、ハイリ
スク事例支援論、コミュニティネットワ
ーキング論、地域ケアシステム論、学校保
健論、産業保健論、健康危機管理論、グ
ローバルコミュニティマネジメント論、保
健医療福祉行政論、公衆衛生看護学レ
ビュー、保健政策研究、公衆衛生看護実
習、グローバルコミュニティ実習

— 母子保健/
ジェンダー平等の向上 —

助産実践科学

多様性をもつ女性や子どもへの
質の高い助産実践の探求と
ジェンダー平等に向けた活動実践

助産学特論、地域助産実習、周産期学
特論、国際助産演習、周産期健康危機
管理ケア論、助産診断技術学Ⅰ(分娩介
助)、助産診断技術学Ⅱ(継続ケア)、助産
診断技術学Ⅲ(健康診査と健康教育技
法)、助産研究レビュー、助産診断技術
実習、新生児・乳幼児ケア論、助産管理
論、開業助産実習

共通科目
(国際性・研究力)

人権意識・高潔な
倫理観と使命感・高い志

多様な言語・文化・価値を
乗り越える関係性の構築と協調性

専門性と社会的包摂の探求

現地の人々の視点による
課題解決能力
調査・研究の基礎知識

多様性への理解と洞察
文化・歴史・宗教・価値観等

国際的視野の涵養
国際保健・活動、公衆衛生

繰り返し積み上げていくリフレクションと資質の向上

研究基盤科目群

国際看護学特論、看護学研究方法特論、
国際看護研究特論、保健データ解析特講

研究関連科目群

ジェンダー学特論、公衆衛生学特論、健康栄養学特論、
医療人類学特論、デジタルヘルスケア特講

※予定であり、内容に変更が生じる場合があります。

Course Tree

修士課程コースツリー〈学位：修士（看護学）〉

2年間 コースツリー

看護実践科学分野

将来像

研究者、教育者、臨床家（看護管理者）、行政職（法務技官、検疫官、看護系技官）、JICA専門家、上級研究員、職能団体等

進路

臨床家、博士課程進学、教育者、研究者

公衆衛生看護実践科学分野

一保健師国家資格取得一

将来像

研究者、教育者、臨床家（保健師・看護管理者）、行政職（法務技官、検疫官、看護系技官）上級研究員、職能団体等

進路

臨床家、博士課程進学、教育者、研究者

助産実践科学分野

一助産師国家資格取得一

将来像

研究者、教育者、臨床家、助産師（看護管理者）、行政職（法務技官、看護系技官）、JICA専門家、上級研究員、職能団体等

進路

臨床家、博士課程進学、教育者、研究者

長期履修 コースツリー

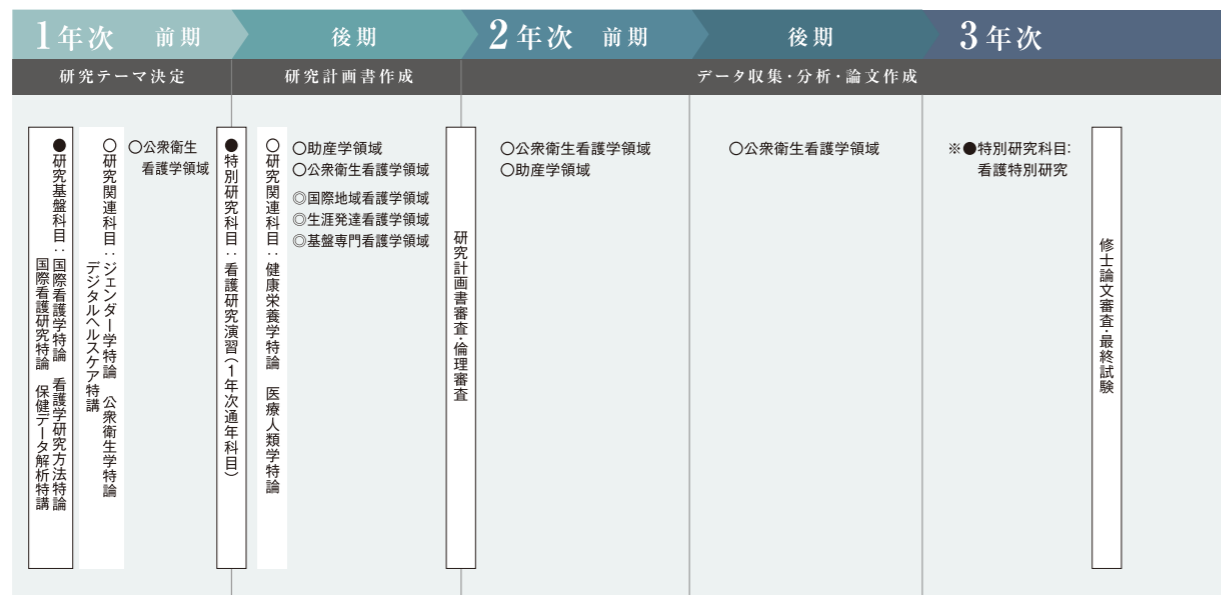
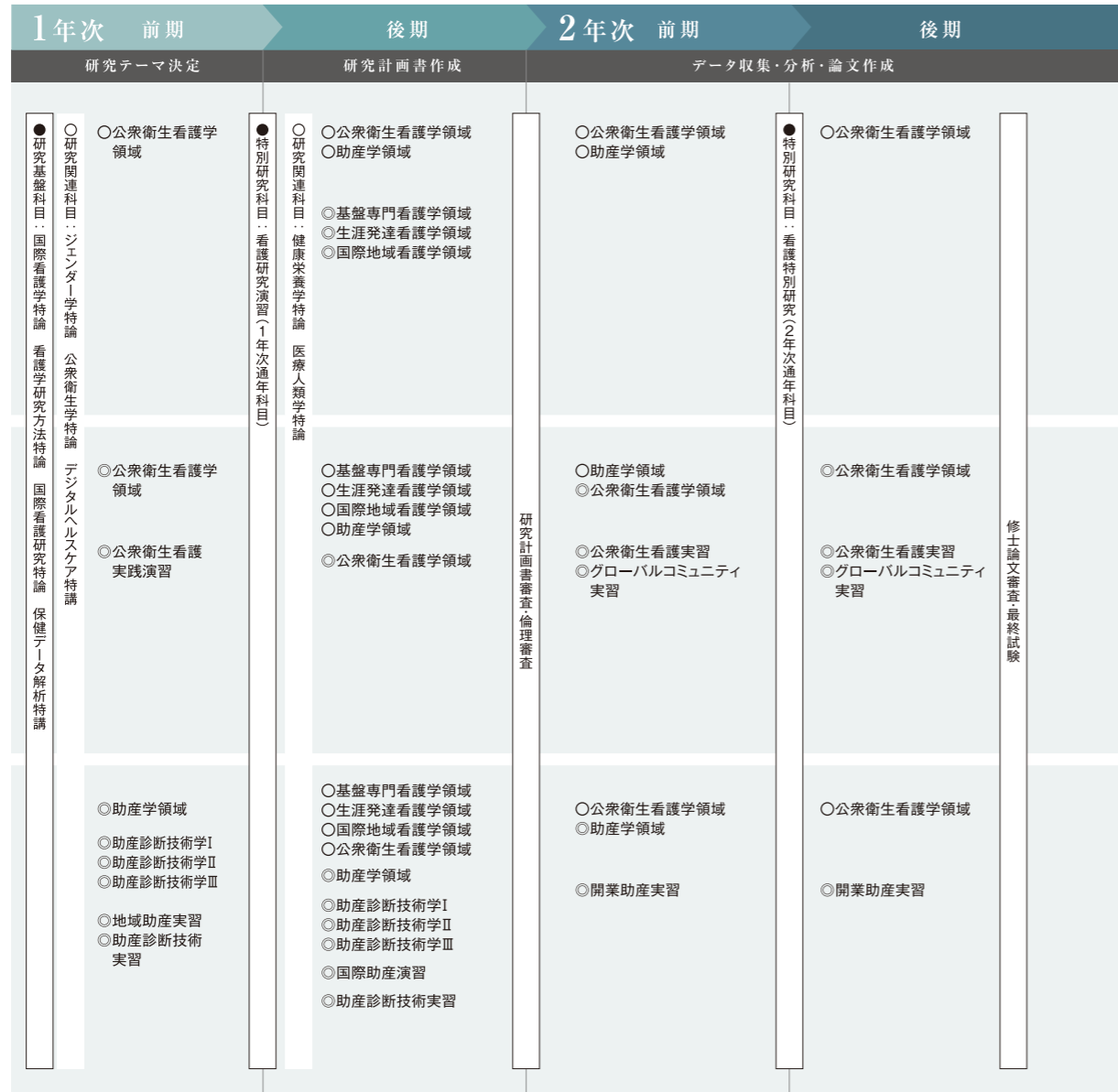
看護実践科学分野

将来像

研究者、教育者、臨床家（看護管理等）、行政職（法務技官、検疫官、看護系技官）、JICA専門家、上級研究員、職能団体等

進路

臨床家、博士課程進学、教育者、研究者



※表中●は必修、○は選択、◎は選択必修、黒枠は主に研究関連科目を示す。

Curriculum Map

カリキュラム・マップ

科目区分	授業科目の名称	配当年次	ディプロマ・ポリシー			
			①グローバル社会における看護実践の基盤となる保健・医療・看護や健康支援の多様性を理解し、看護や医療に関する幅広い知識と倫理観を持って対象の価値観を尊重する国際性を修得している。	②看護実践の場に内在する多様な健康課題を科学的分析力や論理的思考力によって探求し、グローバルな視点によって様々な健康課題の改善に取り組むための基礎的研究力を修得している。	③グローバル社会に内在する健康課題の解決に向けて、専門分野の知識・技術の理解と研究を通して、専門性と独創性のある看護実践力を修得している。	
共通科目	研究基盤科目	国際看護学特論	1年前期	◎		◎
		看護学研究方法特論	1年前期	○		
		国際看護研究特論	1年前期	◎		
		保健データ解析特論	1年前期		◎	
		ジェンダー学特論	1年前期	◎		◎
	研究関連科目	公衆衛生学特論	1年前期	◎		
		健康栄養学特論	1年後期		◎	○
		医療人類学特論	1年後期	◎		
		デジタルヘルスケア特論	1年前期		◎	○
		グローバルキャリア演習	2年通年	○		◎
看護実践科学分野	看護学 基礎専門	看護管理特論	1年後期			◎
		慢性・老年看護特論	1年後期			◎
		看護技術特論	1年後期			◎
	看護学 生涯発達	小児・思春期健康支援特論	1年後期		○	◎
		プレコンセプションケア特論	1年後期			◎
		セクシュアリティ看護特論	1年後期	○		◎
	看護学 国際地域	地域在宅看護特論	1年後期			◎
		精神保健特論	1年後期		○	◎
		国際保健活動特論	1年後期	◎		◎
		公衆衛生看護学特論	1年前期	○		◎
公衆衛生看護実践科学分野	公衆衛生看護学	公衆衛生看護実践特論	1年後期	○		◎
		公衆衛生看護実践演習	1年後期			◎
		人口学特論	2年後期		○	
		保健統計論	1年前期		○	
		疫学特論	1年前期		○	
		ハイリスク事例支援論	1年後期			◎
		コミュニティネットワーク論	1年後期			◎
		地域ケアシステム論	1年後期			◎
		学校保健論	1年後期			◎
		産業保健論	1年後期	○		◎
健康危機管理論	1年後期			◎		
助産実践科学分野	助産学	グローバルコミュニティマネジメント論	2年前期	◎		◎
		保健医療福祉行政論	2年前期			◎
		公衆衛生看護学レビュー	2年前期		○	◎
		保健政策研究	2年後期		○	◎
		公衆衛生看護学実習	2年通年	○		◎
		グローバルコミュニティ実習	2年通年	◎		◎
		助産学特論	1年前期	○		◎
		地域助産実習	1年前期			◎
		周産期学特論	1年後期			◎
		国際助産演習	1年後期	○		◎
周産期健康危機管理ケア論	2年前期	○		◎		
助産診断技術学I（分娩介助）	1年通年			◎		
助産診断技術学II（継続ケア）	1年通年			◎		
助産診断技術学III（健康診査と健康教育技法）	1年通年			◎		
助産研究レビュー	1年通年		○			
助産診断技術実習	1年通年			◎		
新生児・乳幼児ケア論	1年前期			◎		
助産管理論	2年前期			◎		
開業助産実習	2年通年	○		◎		
看護研究演習	1年通年	◎		◎		
看護特別研究	2年通年	◎		○		

本研究科のディプロマ・ポリシー（DP）を達成するために、上記の体系的な教育課程の編成を行っている。各DP達成にとって◎：最も重要な科目、○：重要な科目を示す。

国際性、研究力、看護実践力を涵養する学び。



共通科目
研究基盤科目

国際看護学 特論

グローバル化が健康に与える影響と日本社会の変化を概観し、医療・看護現場で生じる課題をデータや事例をもとに学びます。また、多様な人々が暮らす社会における健康・福祉・QOLの実態を理解し、ディスカッションを通して健康支援への考察を深めます。さらに、JICA等の国際保健活動における看護職の支援事例から、国際看護活動に必要な知識を学びます。



共通科目
研究関連科目

デジタル ヘルスケア 特講

AI、ICT、VR/AR/XRなどの先端デジタル技術を活用した看護・医療・教育の最新動向について学びます。遠隔医療やオンライン教育、デジタルシミュレーション、AIを用いた臨床データ解析など、多様な実践事例を通して、デジタルヘルスの可能性と課題を探究します。さらに、グループワークを通じて、臨床や教育現場の課題解決に向けた研究企画にも取り組み、次世代の看護実践・教育を創造する力を養います。

専門科目

看護実践科学 -国際地域看護学-



国際保健活動特論

国際保健活動の世界的中心である国連の開発目標(MDGs, SDGs)と国際的な健康課題、健康格差、貧困について教授し、看護職としての国際保健活動を考えます。次に具体的な実践事例を通じて、JICA等で行われている国際保健活動の問題点を教授します。これらの学修成果を基盤としたグループ討議を通じて新しい国際保健活動を提案し、学生間でクリティックすることによって、計画を向上させます。

専門科目

公衆衛生看護実践科学 -公衆衛生看護学-



グローバルコミュニティ実習

日本国内の訪日外国人や定住外国人に対する相談活動を通し、保健・医療・福祉の連携の実際を教授します。また、多国籍の健康支援のための協働活動を理解し、展開できる基本的能力を涵養。さらに、検疫所の活動を通して国境を越えた人々の移動に伴う健康課題とその対応に関する公衆衛生看護の役割を捉え、グローバルな視点で国内の地域住民や定住外国人への健康支援、関係機関との協働活動の展開について教授します。

専門科目

助産実践科学 -助産学-



国際助産演習

外国での助産実践の見学と、同意を得た外国人妊産婦に対する健康教育の一部を実施します。また、施設および産婦の同意が得られた事例の家庭訪問を実施し、多文化のコミュニティおよび家庭における出産や育児習慣についての学修を促進。グローバルな視点からリプロダクティブヘルスをとらえるために、母子保健に関連する行政、教育、臨床の3つの側面から、外国と日本の状況を比較する視点も涵養します。

共通科目
研究基盤科目



国際看護研究特論

世界の看護・ヘルスケアを視野に入れながら、エビデンスを生み出す研究手法であるシステマティックレビューを基礎から学びます。海外の研究にも触れ、文化や医療背景の違いを理解しつつ、先行研究を丁寧に読み解く力を養います。国際的な視点から健康課題を考え、自分の関心を研究テーマへと発展させていく楽しさを体験してください。

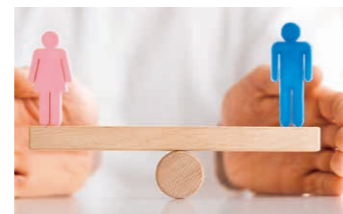


教授・博士(保健学)
西村 直子

研究テーマ:
こどものボディイメージ、
自己効力感、希少疾患
担当科目:
小児・思春期健康支援特論/
看護特別研究

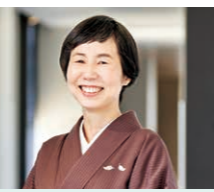
学歴: 鳥取大学大学院医学系
研究科保健学専攻博士後期課程

共通科目
研究関連科目



ジェンダー学特論

世界におけるジェンダー不均衡の現状を分析する視点から、ジェンダー学を用いた健康、教育、政治、経済分野に加え、性と文化に関する国内外の課題の事前資料を読解し、関連文献をもとに資料を作成し、発表と討議を通じて理解を深めます。



教授・博士(看護学)
藤井ひろみ

研究テーマ:
セクシュアリティの看護、
看護とジェンダー、助産ケア
担当科目:
ジェンダー学特論/
セクシュアリティ看護特論/
看護特別研究

学歴: 神戸市看護大学 博士
看護学研究科

現代社会の多様な健康課題と向き合い、真摯に研究に取り組んでいます。

専攻分野	研究課題
看護実践科学 分野	● コルチゾールとK6からみたトランスジェンダーをはじめとする多様なジェンダーを生きる人々のストレス状況
	● Economic Partnership Agreement (EPA) のもと来日したベトナム人看護師への教育・指導方法の現状と支援体制の強化 -指導者へのインタビュー調査から-
	● バングラデシュダッカ管区におけるDiploma課程の看護教育に関する実態調査
公衆衛生看護 実践科学分野	● 日本の月経教育に必要な支援とは -大学新入生への実態調査-
	● 市区町村保健師が児童虐待ハイリスクの父親をアセスメントするための視点と予防的支援の阻害要因
	● 就労を継続している発達障がい者の親の子育て経験に関する質的研究
助産実践科学 分野	● 異文化適応過程におけるインフォーマルサポートの構築と利用について -留学生へのインタビュー調査からの一考察-
	● 在留ムスリム女性の母乳育児をめぐる実践
	● 日本人20代就労女性の避妊行動におけるReproductive Autonomy (生殖の自律性)
	● 多胎児を出産した母親の産後ケア事業に対するニーズ -授乳ケアを中心として-



Training Report

実習レポート

WEBサイトにて他の実習レポートも紹介しています。



本研究科ではグローバルで多様性のある地域社会において、看護を探究するための現地実習・演習を豊富に提供しています。様々な現場でスキルを積み、国や地域の健康課題を理解し、看護に必要な深い気づきが得られる演習と実習を紹介します。

国際助産演習



助産実践科学分野 修了
宮川 美海さん
大手前大学 国際看護学部出身

異なる文化・価値観の中で育まれた
“相手を理解する姿勢”と“自分の意見を伝える姿勢”。

2週間の国際助産演習でラオスを訪れました。1週目は首都のビエンチャンにあるラオス保健科学大学とマホソット病院での演習、2週目は北部の地方都市ルアンパバーンにあるラオ・フレンズ小児病院のアウトリーチ活動へ参加しました。都市部の病院の産科病棟・産科外来では、妊婦健診・分娩介助・家族計画・乳児健診を見学し、その中で健康教育の一部を実施しました。地方の村では、健康教育・乳幼児健診を実施しました。また、僻地の自宅への訪問看護に同伴し、家族との関わりやケアを見学しました。印象に残っているのは、実習先の訪問看護師の方からいただいた「思い込みは禁物。端的に考えないことがとても大切」というアドバイスです。この言葉と現地での経験を通じて、健康問題には様々な要因が複雑に絡み合っていることを理解できるようになりました。演習を通じてとくに成長を感じたのは、日本とは異なる文化や価値観を持つラオスの人々と関わる中で育まれた“相手を理解しようとする姿勢”と“自分の意見を伝える姿勢”です。加えて、物事を多角的に捉える視点も、より深く意識するようになりました。将来は国内外で、国籍や人種を問わず、妊産婦の方々とその家族を尊重した関わりができる助産師をめざしています。今後も自分で考えて行動する力とチームで協働する力の両方を伸ばしていきたいです。



加古川刑務所



看護実践科学分野 修了
西 美和さん
大阪厚生年金看護専門学校、武蔵野大学通信課程出身

矯正施設の実際を学び、受刑者の社会復帰後の
心身の健康まで考慮した支援を、看護の視点で捉える。

加古川刑務所研修では、刑務官からの施設概要説明に始まり、施設見学、さらに刑務官・事務官・看護師との少人数制での意見交換が行われました。矯正施設の設立目的や役割、職員の職種や職務内容について学ぶとともに、成り立ちや歴史的背景を通して、受刑者の人権を尊重した矯正処遇が時代とともに改善されてきた経緯の理解が深まりました。さらに、再犯防止や社会復帰に向けた具体的な取り組みについて現状を知ることができました。受刑者が従事する刑務作業の見学も貴重な経験でした。特に印象的だったのは、私自身も新型コロナウイルス感染症の時に使用していた個人用防護具が、刑務所内で製作されていたことです。この研修を通して、受刑者の社会復帰後の心身の健康までを考慮してどのようにケアを求める人に関わるか、看護職としての視点を得ることができました。



外国人院生メッセージ

本研究科は外国の学生にも、学びやすい学修環境を整えています。



看護実践科学分野
MONKHDOL
BAYARJARGALさん
モンゴル国立医科大学
ダルハン・オール分校出身

多様な仲間との出会いと学び合いが、
世界に貢献する看護の力になる。

モンゴルで看護師資格を取得し、主に母子保健関連の国際交流プロジェクトや子ども支援活動に携わってきました。現場で感じた課題を研究として捉え、解決と実践につなげる力を育てるため、国際看護学研究科に進学しました。多様な背景を持つ仲間と学び合い、先生方の丁寧で専門的な指導を受けながら、自分の経験を新しい学びへと広げられる環境に大きな魅力を感じています。



看護実践科学分野
MUHAMMAD
RIZKI YUNJARさん
HEALTH POLYTECHNIC
MINISTRY OF
HEALTH JAKARTA ■出身

日本での経験をもとに、
母国や国際看護の発展に尽くしたい。

2014年にインドネシアから来日し、EPA看護師として岸和田平成病院で勤務しながら本研究科で学んでいます。異文化看護や国際保健を学べる環境が整い、授業も日英バイリンガル対応のため、外国人学生にも学びやすい大学院です。今後は、外国人看護師の国家試験合格支援やEPA制度について研究を深め、将来はインドネシアで看護師の研修・派遣制度の改善に貢献したいと考えています。

Career Development

修了生のキャリア形成

大学院で培った実践力と専門性を武器に、修了生は保健師や助産師、研究者として幅広く活躍しています。研究・教育・臨床・地域福祉・国際協力など、看護の新たな未来を切り拓く多彩なキャリアが広がっています。

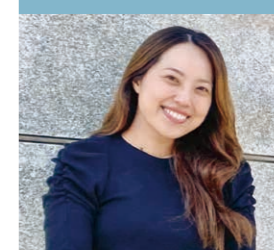


就職先
学校法人 大手前学園
大手前大学

看護実践科学分野 修了
土屋 航季さん
藤田医科大学出身

教育者として研究者として、自らの成長をめざして。

2025年4月、大手前大学国際看護学部の助教に着任。精神看護学領域の講義や実習を担当し、演習の支援やレポート課題の確認、病院実習の引率など、学生の学びを幅広く支えています。研究と教育の場である大学では、日々新しい挑戦に向き合えることに、大きなやりがいを感じています。大学院で培った研究の基礎は、教員として次の探究へとつながり、大学院生としての経験も、学生指導の中で生きています。今後は、理解されにくい精神疾患の症状について、理解が深まるような研究に取り組み、研究者としてもさらに歩みを進めたいです。



進学先
大阪大学 大学院
医学系研究科保健学専攻 博士後期課程

看護実践科学分野 修了
塩冶 百恵さん
千里金蘭大学 看護学部看護学科出身

命と向き合う助産師として、臨床と研究の架け橋に。

お母さんと赤ちゃんのご家族への支援に直結する研究をめざすために、大阪大学大学院の博士後期課程に進学しました。大手前大学大学院では、ラオスでの海外実習に参加し、現地の医療スタッフの方々からのサポートを得ながら妊産婦へ健康教育や、文化を尊重した指導と支援を実践。助産師としての臨床経験に、国際看護の学びを重ねた今、今後は臨床と研究の両面に挑み、多様な背景を持ち命と向き合うお母さんとご家族を支えられる研究に取り組んでいきたいと考えています。



就職先
東大阪市役所

公衆衛生看護実践科学分野 修了
吉川 胡春さん
大手前大学 国際看護学部出身

在院中の幅広い学びが、現在の揺るぎない基盤に。

0歳から18歳未満の子どもや妊産婦、その家庭を支える部署で日々、相談対応や訪問支援に取り組んでいます。大学院では母子保健の実践や行政との連携方法、多文化対応などを幅広く学びました。また講義や警察署での実習、卒業研究を通して虐待やDVの知識や対応の基本を学んだことで、実際のケースに直面した際も落ち着いて対応できました。複雑な相談にも多職種と連携しながら丁寧に対応できるのは、在学中に培った視点と経験が基盤となっています。多様な現場を経験し、地域の人々に信頼される保健師をめざします。

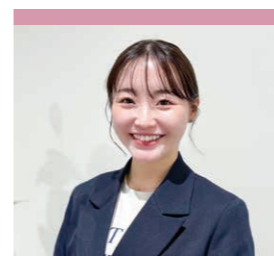


就職先
国立研究開発法人
国立循環器病研究センター

公衆衛生看護実践科学分野 修了
溝神 裕美さん
国立福山病院附属看護学校出身

情報の力で地域と世界をつなぎ、安心・安全な医療を実現。

国立循環器病研究センターの医療情報管理室にて、PHR(Personal Health Record)システムの構築や地域連携システムの強化と改善に携わっています。政府や世界の統計データを分析し、健康課題に関する討議や会議で発言する際、大学院で学んだ公衆衛生看護の知識や実習での経験が活かされていると感じます。また日々、専門が異なる修士・博士と研究的視点で議論できることも刺激的です。今後は、国内外の健康情報と連携し、国内外で治療を受けた人が自国に戻っても安心して生活できる環境を整えることをめざし、研究を続けながらシステム改善に取り組んでいます。



就職先
独立行政法人地域医療機能推進機構
JCHO大阪病院

助産実践科学分野 修了
入江 晴奈さん
大手前大学 国際看護学部出身

先入観なく、母子に寄り添える助産師として。

大学院では、1年次から助産所や病院など多様な施設で実習を重ね、地域ごとの医療体制や助産師の役割を学びました。特にラオスでの海外実習では、異なる文化や生活背景に触れ、「まずは相手を知ること」の大切さを深く実感した経験になりました。現在は配属前に産科やNICUで研修をしており、産後の母子の状態を観察しながら母乳ケアや全身状態の観察を先輩と共にしています。在学中に培った“先入観にとらわれず関わる姿勢”が、現場での対応に大きく活かされています。今後は幅広い助産の経験を積みながら、産後ケアにも視野を広げ、母子と家族に寄り添える助産師をめざします。



就職先
市立池田病院

助産実践科学分野 修了
代谷 英恵さん
京都光華女子大学出身

混合病棟の経験を、将来の助産の基盤に。

大学院では、病院実習に加えて、クリニックや助産所など多様な実習先を経験しました。それぞれの施設で担う役割の違いや、助産師としてのキャリア形成にもさまざまな選択肢があることを学びました。またカンファレンスや振り返りを通して、自分の意見を持ち、言葉にして伝える力も培いました。現在は、産婦人科と内科の混合病棟に所属し、内科領域の看護を担当。在学中に養った自分の意見を伝える姿勢は、研修や現場での対話に活かされています。今後は、産科を担当する際には、母子としっかり向き合うための基盤を築いていきたいです。

Academic Supervisor List

指導教員一覧

看護実践科学分野



総長補佐・教授・博士(医学)

大橋 一友

■ 担当科目

保健データ解析特講/国際保健活動特論/助産診断技術学I(分娩介助)/看護研究演習/看護特別研究

■ 研究指導内容

国内外のグローバル社会での保健医療支援における適正技術の開発や人材育成のプログラム開発についての研究指導を行う。

主な研究内容

国際母子保健学、生殖科学、産婦人科学。定住外国人や訪日外国人への医療提供と健康管理や外国人に対応する医療職に関する研究を日本国際看護師などの学生と一緒に進めている。

社会貢献について

多くのJICA事業に携わる。モンゴルを中心としたアジア諸国やアフリカ諸国での母子保健改善活動が中心。不妊カウンセラーの養成も行っている。

メッセージ

大学院教育では学生さんの希望する研究テーマに沿って指導をしています。「面白い」という感覚を身に付けると、研究はどんどん楽しくなってきます。研究の基礎から勉強しましょう!

医療職としての活動

産婦人科医として40年以上働いている。看護職の大学院教育に携わって20年以上。開発途上国の医師や看護師との活動も行っている。

看護実践科学分野



研究科長・教授・博士(保健学)

鈴木 江三子

■ 担当科目

国際看護学特論/助産学特論/周産期健康危機管理ケア論/看護研究演習/看護特別研究

■ 研究指導内容

国内外の看護職を対象とした看護技術・ケアの向上及び看護教育プログラムの開発についての研究指導を行う。また、女性や子どもへの暴力防止教育プログラムの開発についての研究指導も行う。

主な研究内容

女性や子どもへの暴力の実態とその影響、女子受刑者の育歴と行動特徴、超音波診断の導入と妊婦の身体感覚、途上国支援と看護の役割等。

社会貢献について

日本フォレンジック看護学会理事、大阪市男女共同参画審議会委員、女子矯正施設非常勤助産師等。

看護職としての活動

病院・診療所において15年間、助産師として勤務(うち、14年間看護婦長)、その後、看護系大学に在籍しながらJICA母子保健専門家としてガーナやナイジェリアで助産師のリカレント教育に従事。女子矯正施設での非常勤助産師。

メッセージ

看護職の活躍の場は多種多様で多岐にわたります。病院・診療所以外に海外で活躍したり、検疫官、刑務官、看護技官や行政で政策をつくる人もいます。本研究科に入学していただき、是非とも自分に合った活躍の場を見つける一歩にしてください。

公衆衛生看護実践科学分野



教授・博士(医学)

白井 文恵

■ 担当科目

看護学研究方法特論/公衆衛生看護学特論/コミュニティネットワーク論/地域ケアシステム論/公衆衛生看護学レビュー/公衆衛生看護実習/グローバルコミュニケーション実習/看護研究演習/看護特別研究

■ 研究指導内容

国内外の健康危機(感染症、虐待、DV、自殺、災害等)に対する保健活動のエビデンス構築についての研究指導を行う。

主な研究内容

感染看護、在宅での感染予防。生活習慣と自然免疫の関係について実験研究を実施している。個性性の高い在宅療養者の肺炎予防についても研究している。

社会貢献について

アフリカ諸国で課題となっている衛生的な飲料水供給についての研究を行った。公衆衛生の原点について考える活動をしている。

看護職としての活動

大学院を修了後、行政保健師として保健所勤務をしていました。その後、大学教員となり現在に至る。

メッセージ

保健師は様々な人々の人生に寄り添い健康を支える職種です。保健師になりたいという志と、自分が「研究したい」というテーマを大切に一緒に学んでいきましょう。

助産実践科学分野



国際看護研究所長・教授・修士(文学)

嶋澤 恭子

■ 担当科目

国際看護学特論/国際看護研究特論/医療人類学特論/看護管理特論/国際保健活動特論/助産学特論/地域助産実習/国際助産演習/助産診断技術学I(分娩介助)/助産診断技術学II(継続ケア)/助産診断技術学III(健康診査と健康教育技法)/助産研究レビュー/助産診断技術実習/開業助産実習/看護研究演習/看護特別研究

■ 研究指導内容

日本を含むアジアのプロダクティブヘルス・ライフ、助産師の自律性や助産実践、異文化間看護についての研究指導を行う。

主な研究内容

日本を含むアジア、そして在留外国人のプロダクティブヘルス・ライフについて、また助産師主導のケア実践や、異文化間看護についての研究。

社会貢献について

ラオス語での通訳や医療機関同伴(国内での依頼)。また、女性・多職種・研究者、政策関係者等のNPO団体に所属し活動しています。兵庫県助産師会理事、日本助産学会評議員(国際委員会)。

看護職としての活動

大学病院、病院、診療所で助産師として勤務、助産所や自宅出産のお手伝いも経験させていただきました。JICAボランティアでラオス、短期専門家でもブラジル。大学および大学院での看護・助産教育15年。

メッセージ

助産師になりたいという強い意志とともに、研究活動に必要な「知的好奇心」を待つ方をお待ちしています。研究力を備えた専門職としての「哲学」や「根っこ」を育てていきましょう。

看護実践科学分野



■ 担当科目

看護管理特論/看護研究演習/看護特別研究

■ 研究指導内容

看護管理者教育および看護師教育やそのプログラム開発、および看護職のキャリアに関する研究指導を行う。

教授・博士(看護学)

笠松 由利

看護実践科学分野



■ 担当科目

地域在宅看護特論/看護研究演習/看護特別研究

■ 研究指導内容

高齢者ケアや地域ケアシステムの構築に関する研究に取り組む。地域やコミュニティにおける人々の暮らし、多職種連携などについての研究指導も行う。

教授・博士(看護学)

記村 聡子

看護実践科学分野



■ 担当科目

精神保健特論/看護研究演習/看護特別研究

■ 研究指導内容

精神科救急急性期看護の研究や言語の数理解析を通じて、人の精神状態を評価するための研究指導を行う。

教授・博士(医科学)

清水 純

看護実践科学分野



■ 担当科目

プレコンセプションケア特論/周産期学特論/看護研究演習/看護特別研究

■ 研究指導内容

周産期学の可能性と限界や、新しいプレコンセプション教育に関する問題点についての研究指導を行う。

教授・博士(医学)

富松 拓治

看護実践科学分野



■ 担当科目

看護学研究方法特論/国際看護研究特論/小児・思春期健康支援特論/新生児・乳幼児ケア論/看護研究演習/看護特別研究

■ 研究指導内容

医療施設や地域など多様な場で生活する小児とその家族が、健康障害の有無にかかわらず「その人らしさ」を維持できる支援についての研究指導を行う。

教授・博士(保健学)

西村 直子

看護実践科学分野



■ 担当科目

看護学研究方法特論/ジェンダー学特論/セクシュアリティ看護特論/助産管理論/看護研究演習/看護特別研究

■ 研究指導内容

年齢、性別、性的指向、性自認、国籍、宗教、信条、社会経済的地位、ライフスタイル、健康レベルなどの多様な人間の性(セクシュアリティ)の在り様とケアを、量的・質的に追究する研究(助産学研究、性機能障害への看護、看護とジェンダー研究)についての指導を行う。

教授・博士(看護学)

藤井 ひろみ

主な研究内容

看護師のキャリア開発をはじめ、看護管理や看護教育に関する研究。現在は、看護師の能力開発や成長を促す効果的なプログラムの開発を進める。

社会貢献について

臨床での看護管理経験を活かして、病院施設で看護管理者研修、看護師研修を担当。リーダーシップやコミュニケーションに関する研修が得意。

看護職としての活動

看護師免許取得後、大学病院で約30年勤務し、看護教員となる。臨床では、看護や看護管理の魅力について語り合うことを楽しんでいた。

メッセージ

「看護師は省察的实践家である」一緒に経験を振り返り、自身の成長につながるディスカッションをしましょう。

主な研究内容

高齢者が住み慣れた地域で自分らしく暮らし続けられるようにするための看護の推進を研究テーマとし、ナラティブ・アプローチやアクションリサーチを用いて取り組む。

看護職としての活動

一般病院、訪問看護ステーションにおいて看護師として働く。

社会貢献について

病院や施設の研究指導や講演を行う。今後は地域に向けて看護のエッセンスを伝えていくことをめざす。私生活では自治体活動にも参加。

メッセージ

研究を通して「看護とは何か」に向き合い、自身の経験を振り返る機会となる。看護を語り合い、共に学ぶプロセスを体験してほしい。

主な研究内容

精神疾患患者や精神障害者と健常者の話し言葉や書き言葉を数理的に解析することで、それぞれの特徴を明らかにし、診断の補助的指標として役立っている。

看護職としての活動

精神科病院(主に精神科救急・急性期病棟)で17年間勤務経験あり。

社会貢献について

高校生や大学生への講義、学会の運営などを行っている。

メッセージ

可視化することが難しい精神の病気を視覚で正しく捉えることのできる新しい方法を研究によって明らかにしましょう。これを看護に活かす研究をしましょう。

主な研究内容

脳性麻痺に代表される新生児脳障害のメカニズム・予防・治療について幅広く研究。

医療職としての活動

これまで産婦人科医師として臨床・教育・研究に携わってきました。臨床現場では多くの看護職の方と共に、患者さんの様々な問題の解決に取り組んできました。

社会貢献について

大阪大学大学院医学系研究科招へい教授、産科医療補償制度原因分析委員、産科診療ガイドライン2023年度版作成委員、大阪府産科医学会理事、大阪府看護協会アドバンス助産師研修講師、助産師国家試験対策委員の監督など。

メッセージ

広い視野から医療を見る力を持った看護師が求められています。皆さんのさらなる成長を全力でサポートします。

主な研究内容

乳幼児期の養育者と子どもの相互作用、こどものボディイメージや自己概念が研究テーマ。特に低身長や軟骨無形成症などの希少疾患。

看護職としての活動

心臓血管外科とNICUで勤務。NICUは日本とオーストラリアで勤務した経験がある。

社会貢献について

エビデンスに基づいたヘルスケア実践を促進する世界的研究機関JBIの大手前支部のディレクター。小児専門訪問看護ステーションの社外顧問。

メッセージ

看護研究は楽しくやりがいがあるプロセス。自分が投じた一石が社会をいい方向に変えていく。素敵なことだと思いませんか?

主な研究内容

ジェンダー、セクシュアリティなど性の多様性に関する研究。性の健康教育、家族形成支援。看護/助産教育方法、開業助産師の技に関する研究。

看護職としての活動

社会福祉主事、ソーシャルワーカーとして勤務したのち、助産師。5年間は地域開業(藤井助産所)を大手前の地でおこなった。

社会貢献について

兵庫県助産師会監事、(一社)性的指向および性自認等により困難を抱えている当事者等に対する法整備のための全国連合会代表理事など。

メッセージ

国際看護学研究はグローバルイシュー(世界規模の課題)解決のための小さな一歩です。研究能力のためだけでなく、人格の陶冶につながります。

看護実践科学分野



教授・博士
(保健学)

和田 由里

担当科目

慢性・老年看護特論／看護研究演習／看護特別研究

研究指導内容

生体臓器移植ドナーの臓器提供に関する移植コーディネーターの意思決定支援について研究を行っている。また、臓器移植に関わる生命倫理に関する看護教育の在り方について研究指導を行う。

主な研究内容

生体臓器移植ドナーの意思決定支援に関する研究。

社会貢献について

看護学校での国際看護学に関する授業や研究のサポートを実施。

メッセージ

看護をとおして多くの経験や学びが得られます。自身の成長に素晴らしい影響を与えてくれること間違いなしです。本研究科は看護をとおしてグローバルな視点も学び、より多くの経験が得られることと思います。ぜひ、一緒に成長しませんか。

看護職としての活動

10年間、看護師として病院に勤務。その後は看護教育に携わり、多くの看護学生たちと切磋琢磨してきた。

看護実践科学分野



准教授・博士
(看護学)

戸田 登美子

担当科目

国際看護学特論／国際看護研究特論／看護研究演習／看護特別研究

研究指導内容

国内外の移民・外国籍の人々の健康課題や健康格差などの実態把握及び、文化、言語や宗教の相違が人々の健康に及ぼす影響の探索、またこれらの課題解決に関する研究指導を行う。

主な研究内容

外国人や留学生、外国にルーツをもつ人、多様な文化・言語・宗教的背景をもつ人の健康、健康支援や医療へのアプローチ。

社会貢献について

国内・国際看護学会の事務局、日本WHO協会機関誌編集委員、学会講師など。

メッセージ

先人へあって知の探究の旅に出ませんか。少しの勇気をもって、本学で仲間とともに新たなキャリア・世界に一步踏み出しましょう。

看護職としての活動

総合病院や職能団体に勤務した後、看護系大学にて教育・研究に携わる。

看護実践科学分野



准教授・修士
(医科学)

熊谷 桂子

担当科目

看護研究演習

研究指導内容

看護基礎教育における看護技術の習得支援と安全な看護実践、技術教育の評価手法の検討、臨地実習における効果的な学生指導の在り方について研究指導を行う。

主な研究内容

感染症疫学、看護基礎教育における指導法や演習の効果に関する研究、臨地実習指導者との連携や指導力強化に関する研究。

社会貢献について

看護学校非常勤講師、看護協会主催「まほの保健室」における看護活動など。

看護職としての活動

看護師として大学病院で勤務した後、養護教諭を経て、教員として看護基礎教育に携わる。

メッセージ

日々の看護実践や教育における疑問を見逃さずに探求してみませんか。看護の未来に貢献し、自身の成長にもきっと繋がります。

看護実践科学分野



准教授・博士
(保健学)

高谷 知史

担当科目

小児・思春期健康支援特論／デジタルヘルスケア特講／グローバルコミュニティ実習

研究指導内容

小児慢性疾患児や発達障害児のいる家族を対象とした家族看護学研究やシステムティックレビュー、また、ICTを用いたシミュレーション教育プログラムの開発・評価に関する研究指導を行う。

主な研究内容

慢性疾患児のいる家族とのコンコダンス、自閉症児の家族支援、VR-AIを活用した看護シミュレーション教育。にかかるアドバイザーとして従事している。

社会貢献について

小児を専門とする訪問看護ステーションの社外顧問として、国際事業部の発足・企画設計

看護職としての活動

小児科看護師。大学教員として看護教育・研究に従事する傍ら、国際看護研究所員、通信教育看護学プログラム主任、看護教育機関の講師、看護や保育系書籍の執筆など、幅広く活動している。

メッセージ

健康障がいのあるなにかかわらず、こどもと家族を中心とした多様な対象者を理解して「寄り添う」とは?そのために看護教育者としてできることは?一緒に家族看護学を探究してみませんか?

看護実践科学分野



准教授・博士
(保健学)

村上 寛

担当科目

看護技術特論／看護研究演習／看護特別研究

研究指導内容

看護実践を支える技術が対象者の自立、安全、安楽の維持・向上を高め効率的であるための看護基礎教育における技術教育の評価と開発について、また、看護活動を支える工学的機器・技術の活用や開発についての研究指導を行う。

主な研究内容

看護活動を支える工学的機器・技術の活用や開発、看護基礎教育における技術教育の評価と開発、看護実践の質とその評価について。

社会貢献について

病院での看護研究および現職教育サポート、地域コミュニティでの健康講話など。

メッセージ

座右の銘は「Theory without practice is empty and practice without theory is blind.」です。ここでの学びが看護実践に新たな視野と意味を見出す機会になることを願っています。

看護職としての活動

一般病院看護師として勤務。米留学にて看護学士および修士課程修了。その後一般病院で看護管理職。博士課程を修了し看護教員。

看護実践科学分野



准教授・博士
(保健学)

田中 春葉

担当科目

慢性・老年看護特論

研究指導内容

地域や施設・病院での高齢者の生活実態や高齢者のケアに関して、質的研究手法を用いた課題探究と実践につながる研究指導を行う。

主な研究内容

家族介護者の実態や支援のシステム開発についての研究、高齢者の自分らしさを支援する研究を行う。

社会貢献について

日本老年看護学会の国際交流委員会委員として老年看護を国内・国外の多様な視座から広める役割を担っている。

看護職としての活動

大阪赤十字病院、日本赤十字社和歌山医療センターで外科・内科病棟、透析室などに勤務。その後、地域のデイサービスや夜間訪問看護を経て、高齢者看護学領域の教員となる。

メッセージ

日本は世界で最も高齢化率が高く、介護保険制度がある国として注目されています。今後、世界の国々も体験する高齢者の課題について、研究を通して一緒に学びませんか。

助産実践科学分野



准教授・博士
(看護学)

林田 聖子

担当科目

助産診断技術学Ⅰ(分娩介助)／助産診断技術学Ⅱ(継続ケア)／助産診断技術学Ⅲ(健康診査と健康教育技法)／国際助産演習／地域助産実習／助産診断技術実習／開業助産実習

研究指導内容

助産師の専門性やキャリア形成を多角的に捉え、キャリア支援および臨床・教育実践に関する研究指導を行う。

主な研究内容

助産師の職業的アイデンティティ形成や、助産学生・新人助産師のキャリア選択支援、混合病棟で働く助産師の就業継続に関する研究。

社会貢献について

地域におけるプレコンセプションケアの啓発活動への参画や、助産師会での医療安全管理委員などの活動に従事。

メッセージ

日本では少子化に伴う産科医療体制の変化の中で、助産師の在り方が問われています。助産の本質を追求しながら、自立した助産師を目指して学びを深めていきましょう。

看護職としての活動

大学病院および総合周産期母子医療センターにおいて、看護師・助産師として勤務したのち、基礎教育に携わる。

学修・研究環境

思考を深める学びの空間。



大手前大学 国際看護研究所

大手前大学 国際看護研究所とは

2019年4月に開設。International Learning Collaborative (ILC) とThe Otemae University Implementation Center (OUIIC) の国際的な看護研究活動を主な目的として、次世代育成に向けた活動を展開しています。ILCの理念である「最新の研究が患者さんの利益に直結する」を日本でも浸透させる、また世界的研究者とのコラボレーションの楽しさを後進に伝えられることをめざしています。

詳しくはこちらから



国際看護研究所長・教授・修士(文学)

嶋澤 恭子

研究テーマ:
アジアのリプロダクション、助産ケア、在留外国人の母子保健

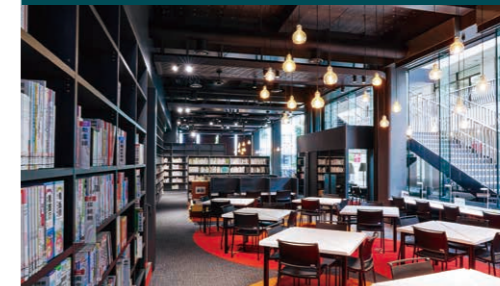
担当科目:
助産学特論/国際助産演習/助産研究レビュー

学歴:
熊本大学 修士 文学研究科

国内外の健康格差の改善において、母子保健の専門職として助産師への期待は大きくなっています。女性や子ども、その家族の多様性への理解を踏まえた支援について、自律的に探究し、他者と協働してケアを提供できる実践能力を持つ人材の育成が重要です。国内外の現場のリアルに触れ、グローバル社会や次世代に対応する助産師の在り方について共に探究しましょう。

Profile

助産師。大学病院、民間病院で助産師として勤務の後、青年海外協力隊としてラオスで活動。帰国後、大学院で文化人類学を専攻。ラオス国境の村など、アジア各地でリプロダクションに関するフィールドワークを行う。神戸看護大学を経て現職。



図書館(1F)

シックな色合いで学びやすい落ち着いた空間をつくり、アクセントとなる赤いカーペットは学ぶ意欲を引き出します。



母性・小児看護学実習室(5F)

周産期や育児期にある女性のケア、新生児をはじめ子どもの各段階について、臨地実習に向けた実践的な学習ができる環境が整っています。



学生ラウンジ

テーブル、カウンター、ソファから用途に合わせて好みの席を選び、くつろげます。併設の食堂では管理栄養士による食事を提供します。



大手前大学大学院 助産実習室

医療施設の分娩室や妊婦健診室を模した設定の中で分娩介助や妊婦健診のタスク演習やシミュレーションを行っています。



プレイヤーーム(祈祷室)

静かな礼拝のひとときを過ごすために祈祷室を設けています。静寂な空間での精神活動のためにどなたでもご利用いただけます。



大森産婦人科医院
「助産診断技術実習」「開業助産実習」



地方独立行政法人市立東大阪医療センター
「助産診断技術実習」「開業助産実習」



毛利助産所 「地域助産実習」 「開業助産実習」

日本の助産所における助産師のAutonomyと助産の継続ケアを実践する能力を習得します。